

第3回 信州大学の留学生のニーズ調査

—2001年11・12月調査において—

佐藤 友則・秋庭 裕子

キーワード：お金の悩み深刻化、卒業後の不安、レベルにあった日本語授業
日本人との表面的な付き合い、それなりに満足

要旨

第3回目のニーズ調査では、「お金の問題」と「卒業後の不安」の2つが留学生の抱える深刻な問題としてクローズアップされた。共に昨今の日本社会の不況を反映したものであり、解決は容易ではない。また、3年連続して留学生が望んだものとして「宿舎の整備」「自分のレベルにあった日本語授業の整備」「日本人との深い交流の拡大」などがあげられる。一方、新たに設けた質問項目により、留学生の卒業後の希望進路、日本人に対する印象、信州大学を友人や家族に推薦したいか等が明らかになった。さらに、経済学部・医学部・学部1年生の3グループそれぞれにおいてソートを行い、全体と比較しつつ、その現状を分析した。

1. 研究の目的

信州大学の留学生に対するニーズ調査は、今回で3回目となる。この間、留学生の入れ替わりや質問項目の変化などがあったが、全留学生のニーズを把握して留学生環境整備の基本資料にするという目的は変わっていない。これまで、資料を集めるだけでなく、前2回の結果をふまえ、SUNS(画像ネットワークシステム)での日本語補講開始などの日本語教育面の充実、留学生の希望を聞いた上でのバス旅行企画などの交流促進の対策等、留学生のニーズに応えようと努力してきた。今回も同様に、この調査で得た結果を現場にフィードバックし、留学生を巡る状況をさらに改善していきたいと考えている。

これまでの調査において、留学生が抱える大きな問題として「お金」と「宿舎」があげられることが判明した。今回の調査では、この他に予想される問題点として「卒業後の進路」と「日本人との交流の難しさ」を取り上げ、それに関する質問項目を加えることにした。昨今の不況による就職への影響は、留学生にも大きな影を落としている。そのため、今後の希望進路を探り、それを進路指導に生かしていきたい。また、2001年には日本全体で留学生が激増し、留学生10万人計画の実現も夢ではなくなってきたが、留学生および在住外国人と日本人との交流の困難さは、以前と比較して改善されているとはいえない。今回の調査で、留学生の日本人との交流の度合い、そして日本人への印象等を調べることにより、今後どのように交流を進めていくかについての資料をも得たいと考えている。

2. 調査の方法

2-1. 調査票の作成

前2回の調査票をもとに、調査の過程で浮き彫りになった問題点を削除・修正し、新たな質問項目を加えて第3回調査のための調査票を作成した。まず、前回の2000年度の調査票から削除・修正したのは、以下の点である。

- ①今回の調査の目的に直接関わらないとして「年齢」「滞日期間」「アルバイト時間」を削除した。「滞日期間」は、日本語学校を経て入学する者、大学院に直接入学する者など、それぞれの留学生の状況により左右されるものであり、日本語能力には大きく関わるが、以前の調査結果では、信州大学での留学生活と大きな相関はなかったため削除した。
- ②「日本人との接触到適当な場所」は、場所・方法を自由に記述させる項目に変更した。
- ③「どのような授業を受けたいか」に関しては、より具体的な質問内容へと変更した。

次に、新たに加えた項目は以下の点である。

- ①日本人との交流活動への参加積極度が、学年によって大きな差があることに着目し、学年を記入させる項目を加えた。そして、後にソートすることにした。
- ②「卒業後・修了後」に悩みを抱える留学生が多いため、卒業後・修了後の具体的な希望に関する項目を加えた。
- ③日本人との交流状況を調査する一環として、「日本人に対する印象」という項目を加えた。さらに、日本人と具体的にどのように交流したいか、自由記述させることにした。
- ④「信州大学に対する満足度」を補完する項目として、満足度60%以上を選択した留学生に、「具体的にどのようなことに満足しているか」を自由記述させた。
- ⑤さらに信州大学に対する印象を問うため、「友人や家族に信州大学への留学を勧めるか」という項目を加えた。

この結果、大項目は「属性」「相談」「日本語能力」「日本人との接触」「満足度」の5項目となり、小項目は22項目となった。この調査票の縮小版を稿末に載せる。

2-2. 調査対象者と時期

調査対象者は、信州大学に2001年11月時点で在籍している全留学生である。全体で341名おり、学部別には、人文24、教育18、経済81、理10、医56、工85、農33、繊維34である。調査の時期は、2001年11月から12月にかけてである。

2-3. 調査票の配布および回収方法

調査票配布は、留学生個々の自宅あてに郵送して行った。約15%の留学生が事務方に連絡せず住所変更していたため、戻ってきた調査票は各学部の事務官に配布を依頼した。配布資料は、調査の目的と締切などを記した依頼文(日・中・英語訳)、今回の調査票、2000年度の調査結果、返送用の封筒(留学生センター佐藤あて、切手添付)の4点である。個々の留学生に、記入した調査票を封筒に入れて投函させることにより、回収を進めた。

2-4. 使用言語と調査時期

前2回は、日本語版と英語版そして日本語版に中国語訳の付記という形式で実施したが、

全留学生の半数を超える中国語話者に配慮し、今回は中国語版も作成した。

3. 全体の結果

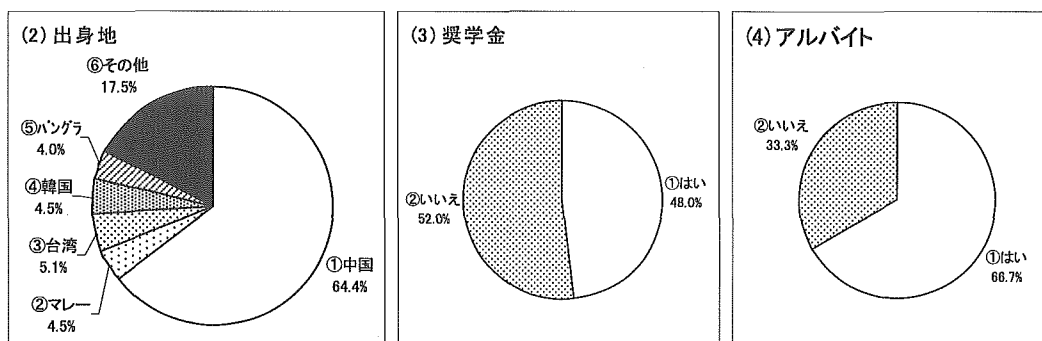
3-1. 回収率

回収できた調査票は177名分だった。これは全体の51.9%に当たる。この3回のニーズ調査を通じ、回収率はいずれも50%をやや上回る程度であり、これをさらに上げるには、特段の工夫と努力が必要とされる。各学部別の回収率は、人文79.2%・教育50%・経済69.1%・理30%・医62.5%・工42.4%・農24.2%・繊維32.4%となった。このうち、回収率・人数ともに大きい経済学部と医学部に関しては、後にソートを行う。

3-2. 属性

以下に調査協力者の属性をあげる。括弧左に人数を、括弧内に比率を記す。

(1)性別： ①男性 97 (54.8) ②女性 80 (45.2)



(2)出身地域：①中国 114 (64.4) ②マレーシア 8 (4.5) ③台湾 9 (5.1)
④韓国 8 (4.5) ⑤バングラデシュ 7 (4.0) ⑥その他の地域 31 (17.5)
(3)奨学金：①受給している 85 (48.0) ②受給していない 92 (52.0)
(4)アルバイト：③している 118 (66.7) ④していない 59 (33.3)

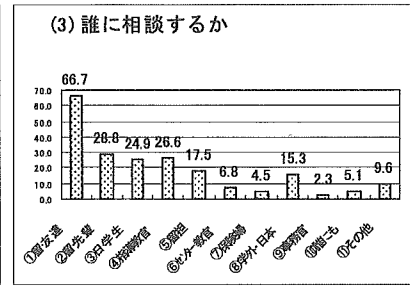
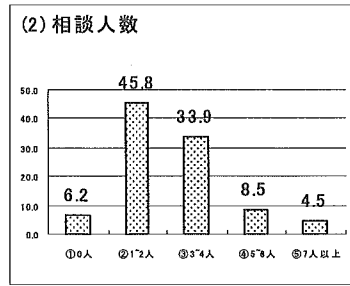
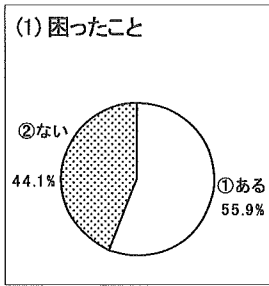
この項目の3年間の推移をみると、出身地域において、中国およびその他の地域からの留学生が増加してマレーシア・台湾が減少していること、奨学金の受給率が大きく下がっていること(00年60.8%)、アルバイト就業率が大幅に増加していること(99年54.7 00年53.0)などが注目される。私費留学生数の増加に反して奨学金全体の伸びは抑えられており、その結果アルバイトに頼らざるを得ない留学生が増加している実態を反映した数字と言える。

3-3. 相談

(1)「自分一人ではどうしようもないほど、困ったことがありますか」

①ある 99 (55.9) ②ない 78 (44.1)

この項目で2項検定を行ったところ、z値=1.5で、1%水準の有意差は見られないという結果を得た。3年間の推移をみると、「ある」が年々減少しつつあり(99年72.4 00年61.3)、留学生が大変な問題に直面するケースが減少していることを示唆している。



(2) 「困ったときにすぐ相談できる人が何人いますか」

- ① 0人:11 (6.2) ② 1~2人:81 (45.8) ③ 3~4人:60 (33.9) ④ 5~6人:15 (8.5)
 ⑤ 7人以上: 8 (4.5)

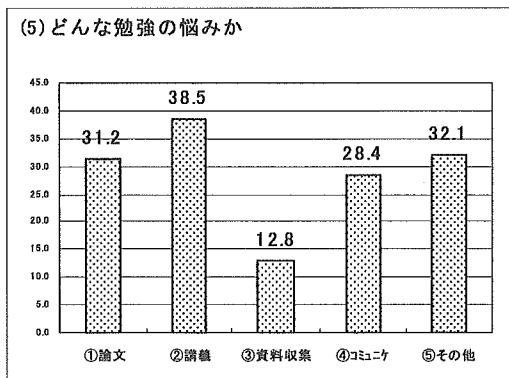
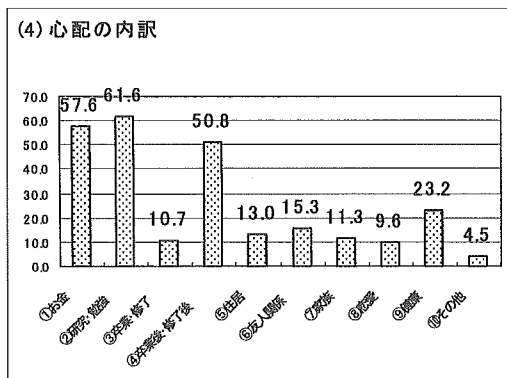
この項目では χ^2 乗検定を行い、 χ^2 乗値=128.5で、1%水準での有意差あり(以下 $p \leq .01$ と記す)という結果を得た。この項目に関しては3年間の大きな変化は見られない。

(3) 「困ったときに誰に最初に相談しますか」(複数回答可) :

- ① 留学生の友達 118(66.7) ②留学生の先輩 51(28.8)
 ③ 日本人学生(チューター含む) 44(24.9) ④指導教官 47(26.6)
 ⑤ 学部の留学生担当教官 31(17.5) ⑥留学生センター教官 12(6.8)
 ⑦ 保健婦 8(4.5) ⑧学外の日本人 27(15.3) ⑨事務の人 4(2.3)
 ⑩ 誰にも相談しない 9(5.1) ⑪その他(家族など) 17(9.6)

相談相手は「留学生の友達」が群をぬいて多く、2/3の留学生があげている。「留学生の先輩」「指導教官」「日本人学生」が20%後半でほぼ並び、「留学生担当教官」「学外の日本人」が10%後半でそれに続く。「センター教官」「事務の人」は10%未満である。

2000年との比較をみると(1999年は質問形式が異なるため対象外)、「日本人学生」「学外の日本人」をあげた者がわずかだが増加した点(00年学生 20.4、学外 12.2)、留学生の先輩と指導教官が減少した点(先輩 32.6、指導教官 30.9)が注目される。



(4) 「どんなことで、よく心配をしますか」(複数回答可) :

- ① お金 102(57.6) ② 研究・勉学の進め方 109(61.6) ③ 卒業・修了 19(10.7)
 ④ 卒業後・修了後 90(50.8) ⑤ 住居 23(13.0) ⑥ 友人関係 27(15.3)

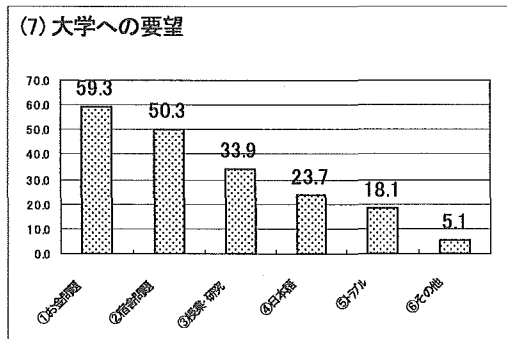
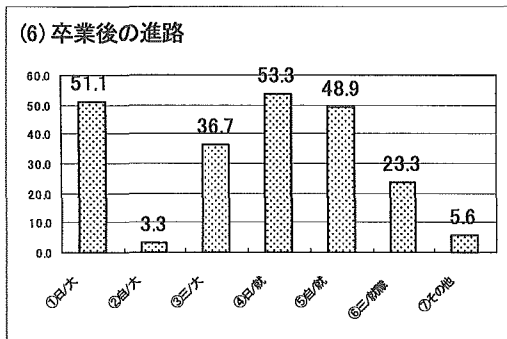
⑦家族 20(11.3) ⑧ 恋愛 17(9.6) ⑨自分の健康 41(23.2) ⑩その他 8(4.5)

心配している内容は「お金」「研究」「卒業後」の3つに集中した。「健康」がそれに次ぐ。推移を見ると、「研究」がTopであることは変化ないが、「お金」が増加している点(99年 47.1)、「卒業後」が倍増している点(99年 28.2、00年 29.8)が注目される。日本の不況による就職難などに対する不安が増大していることを示している。

(5) 「(②研究・勉学の進め方を選んだ人に) 具体的にどのようなことで悩んでいますか」(複数回答可) :

- ①論文が書けない 34(31.2)
- ②講義を聴いても分からない 42(38.5) ③ 資料収集の方法が分からない 14(12.8)
- ④先生とうまくコミュニケーションがとれない 31(28.4) ⑤その他 35(32.1)

昨年とほぼ同様の結果となった。「講義」がTopで「論文」がそれに続いている。しかし「その他」に32.1%も集中してしまうなど、設問の設定に問題がある結果となった。



(6) 「上の質問で④卒業後・修了後を選んだ人に質問します。卒業後・修了後について、具体的にどのようなことを考えていますか」(複数回答可) :

- ①日本での大学院進学 46(51.1) ②自国での大学院進学 3(3.3)
- ③第三国(USAや欧州他)での大学院進学 33(36.7) ④日本での就職 48(53.3)
- ⑤自国での就職 44(48.9) ⑥第三国(USAや欧州他)での就職 21(23.3)
- ⑦その他 5(5.6)

新たに加えたこの項目では、「日本での大学院進学」「日本での就職」「自国での就職」が50%ほどで並び、「第三国の大学院進学」がそれに続いた。大学院・就職を合わせた「卒業後の日本滞在希望」者は相当数にのぼると考えていいだろう。一方、「第三国」への移動を希望した者も相当数おり、日本での状況に満足していない留学生の存在を窺わせる。

(7) 「大学にどんな要望がありますか」(複数回答可) :

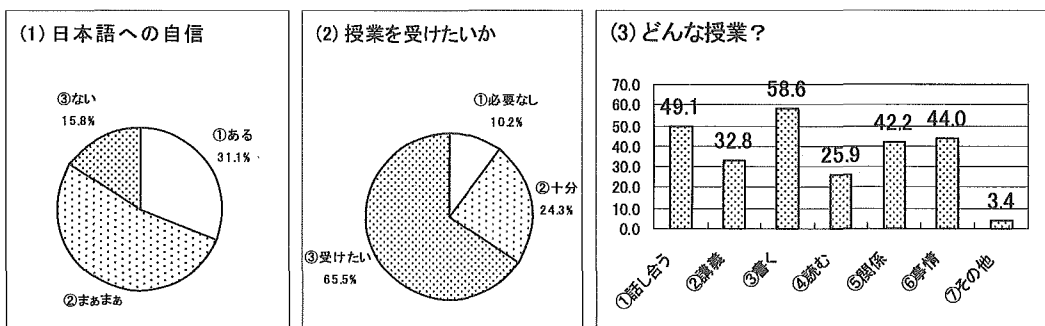
- ① お金の問題の解決 105(59.3) ② 宿舎の問題の解決 89(50.3)
- ③ 授業・研究の問題の解決 60(33.9) ④ 日本語教育の問題の解決 42(23.7)
- ⑤ トラブル処理に関する問題の解決 32(18.1) ⑥ その他 9(5.1)

「お金」「宿舎」に相当数が集中し、「授業・研究」はそれに次ぐ。(4)の心配内容と比例し

ない結果となった。特に(4)で「住居」を挙げた者が13.0%だけなのに、ここで50.3%の者が「宿舎問題」を挙げているのは、現在の住居にさほど不満はないが、安価で便利な国際交流会館への入居希望が非常に強いことを示している。また、民間宿舎への入居では連帯保証人が必要なため、保証人探しや手続きの援助などを期待しているとも考えられる。一方、(4)で61.6%の者が「研究・勉強の進め方」を心配だとしたのに対し、「授業・研究の問題の解決」を挙げた者が33.9%なのは、大学側に希望しても無駄だと考えているか、または個人で解決すべき問題のため、大学へ改善を希望しないかのどちらかであろう。

3年間の推移を見ると、01年度の「お金の問題」の急増が目につく(99年 43.5、00年 49.2)。これは奨学金受給者が急減したことと大きな相関があると考えられる。一方、「授業・研究問題」が減少しつつあること(99年 44.1、00年 40.3)も注目される。

3-4. 日本語能力



(1) 「自分の日本語能力に自信がありますか」： χ^2 乗値=37.3、 $\rho \leq .01$

①ある 55(31.1) ②まあまあ 94(53.1) ③ない 28(15.8)

(2) 「もっと日本語の授業を受けたいですか」： χ^2 乗値=87.9、 $\rho \leq .01$

①必要なし 18(10.2) ②今のままで十分だ 43(24.3) ③受けたい 116(65.5)

この2つの項目に関しては3年間の変化が少なくほぼ一定している。「日本語にある程度の自信はあるが、さらに勉強したい」という留学生のニーズが明確に現れている。

(3) 「③受けたいを回答した人に質問します。具体的にはどのような日本語能力を身につけたいですか」(複数回答可)：

①先生と専門について話し合う能力 57(49.1)

②講義を理解できる能力 38(32.8)

③論文を書く能力 68(58.6)

④論文を読む能力 30(25.9) ⑤日本人との友好関係を深めていける能力 49 (42.2)

⑥日本事情・文化や日本人の考え方をよく知る 51 (44.0) ⑦その他 4 (3.4)

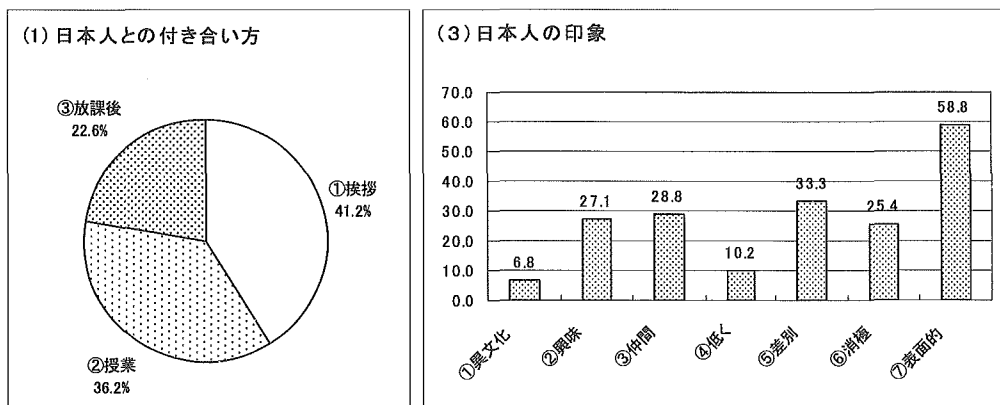
質問項目を修正して行ったこの項目では、論文を「書く能力」のニーズに比べ「読む」能力のニーズが大幅に低いこと、⑤のような4技能(話す・聞く・読む・書く)が統合された日本語能力および⑥のような日本に対する知識を求めていることが明らかになった。

3-5. 日本人との接触

(1) 「あなたは、日本人とどの程度接触していますか」： χ^2 乗値=9.9、 $\rho \leq .01$

- ①あいさつのみ 73(41.2) ②授業ではよく話すが休みに会うほどではない 64(36.2)
 ③放課後や休日に食事をする 40(22.6)

「あいさつのみ」が最も多く、「授業」「放課後」と続く。00年と比較すると「あいさつのみ」が13.6pt増加し(00年 27.6%)、「放課後」が11.1pt減少している(00年 33.7%)。留学生が、日本人との深い接触の「減少」を実感していることの現れである。



(2) 「今後、日本人と接触する機会を持ちたいですか」(グラフなし) : z 値=11.6、 $\rho \leq .01$

- ①持ちたい 166(93.8) ②それほど持ちたくない 11(6.2)

00年とほぼ同様の数字であり、留学生の「日本人との接触希望」が裏付けられる。

(3) 「日本人について、どう考えていますか」(複数回答可) :

- ①(日本人は)異文化をよく理解している 12(6.8)
 ②私の国に興味を持っている 48(27.1) ③私を仲間として受け入れてくれる 51(28.8)
 ④留学生を一段低く見ている 18(10.2) ⑤留学生の国による差別がある 59(33.3)
 ⑥留学生との交流に消極的だ 45(25.4) ⑦表面的な付き合いが多く親友になれない
 104(58.8)

この項目で最も多く選択されたのは「表面的な付き合い」である。しかし、肯定的印象である①②③の合計(62.7)と、否定的印象である④⑤⑥の合計(68.9)は近く、一概に留学生が日本人に対し否定的印象を持っているとは言いがたい。しかし、従来「日本人の印象」としてよく言われてきた⑦が、現在でも最も多く選択されていることは、注目に値する。

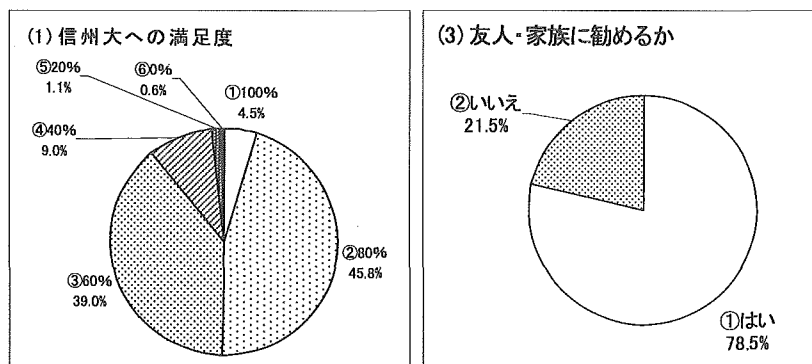
(4) 「日本人とどのように交流したいか具体的に書いてください」:

ディスカッション、ディベート、スピーチ大会などの意見提示型や、料理・スポーツ・アウトドア等の参加型の交流が多くあがっていた。また、1回完結ではない定期的かつ頻繁な交流や、他の学部・大学との交流を望む声も大きかった。特に目立ったものとしては「日本人との付き合いは表面的なものだから、交流会に参加しても意味がない」「留学生の大変さを分かってほしい」「交流というより、自然な環境での付き合いがあればいい」「時間が少なく交流が難しい」「国籍による分け隔てのない交流」などがあげられる。

3-6. 満足度

(1)「あなたの、信州大学に対する満足度をパーセンテージで教えてください」:

①100%:8(4.5) ②80%:81(45.8) ③60%:69(39.0) ④40%:16(9.0) ⑤20%:2(1.1) ⑥0%:1(0.6)



(χ^2 乗値=217.8、 $p \leq .01$) この項目では3年間通じてほぼ同様の結果となった。「100%」「80%」「60%」満足を合計した数字が85%以上に達している。特に「80%満足」は3年連続して45%以上であり、この結果を見る限り「信州大学にかなり満足している」留学生が相当数に達すると言えそうである。しかし、あくまでもこれは、信州大学の全留学生の半数強の意見であることを忘れるわけにはいかない。この調査の回答を拒否した留学生の中に「20%満足」以下である者が多く存在している可能性は否定しきれない。

(2)「(満足度60%より上を回答した人に)具体的にどんなことに満足していますか」:

「先生や事務官が留学生に対して親切で、様々な配慮をしてくれる」という意見が非常に多く寄せられていた。次いで「自然環境・学習環境ともによい」という意見が多かった。また、「交流の機会が多い」「インターネットのサービスがいい」「授業料免除が受けられる」等の意見も目立った。特に、「留学生のための制度が他の大学より整っている」「期待した以上に留学生の面倒を見てくれる」「チューター等の日本人学生が親切」などがあげられる。一方、「キャンパスが暗すぎる」といった改善要望も寄せられた。

(3)「あなたの友人や家族に、信州大学への留学をすすめますか」: z 値=7.5、 $p \leq .01$

①はい 139(78.5)

②いいえ 38(21.5)

一方、新たに加えたこの項目では、(1)の満足度と異なる結果が出た。1/5以上に当たる21.5%の者が、「友人・家族に信州大学への留学を勧めない」と回答したのである。このことは、「自分は何らかの不満はあるが現状にほぼ満足している。しかし知り合いには本当に満足できる大学へ留学してもらいたい」という意識の現われではないかと考える。

4. 考察

4-1. 属性

奨学金とアルバイトに焦点を当てて考察を進める。13年度の国立大学留学生指導研究協議会報告によると、留学生関連の14年度予算は、留学生数の増大にも関わらず前年比

4.6%減とのことである。これにより、国費留学生の給付単価減と私費留学生への援助減がすでに決定している。また、授業料免除を実施している学校法人への援助も減少する。今回の調査で、信州大学内での奨学金の受給者減が明らかになったが、その傾向が来年度はさらに加速する方向にある。また、従来は留学生の授業料免除は比較的容易に受け入れられてきたが、今後はそれも困難になる可能性がある。留学生の金銭面での困難さ、生活のゆとりの無さはさらに増大するであろう。それに伴って生じるのが、アルバイトでの時間的・肉体的負担の増大である。「しなければ勉強もできない」という声をよく耳にする。それは事実であるが、疲れて家に帰り勉強することができない、週末の日本人との交流会に参加したくてもできないといった弊害も生じてくる。某短期大学における留学生集団脱走事件は「対岸の火事」ではない。「お金」と「宿舎」の問題は常に留学生の悩みの種となってきているが、今後、「お金」の問題がさらに深刻になっていくだろう。

4-2. 相談

今回の結果のように、「自分では解決できないトラブルが減少しつつある」のが事実であれば、それは歓迎すべきことであるが、今回の結果だけでそれを裏づけることはできない。今後の検証を待たなければならない。

上述した「お金」が留学生の重大な関心事になっていることは、心配の内訳と大学への要望を見ても分かる。今後は、国レベルの奨学金に頼るのみでなく、大学としても多くの企業や団体に働きかけ、奨学金支給の実現へ努力していかなければならないだろう。特に、今までアプローチしていなかった多くの留学生援助団体に働きかけることが重要だと考える。「どうしようもない」と諦めるのではなく、積極的な行動が求められている。

また、昨今の日本での就職難を留学生も敏感に感じ取っており、今回は「卒業後・修了後」への心配が急増した。今後の具体的な希望としては、日本に残ることを希望する者が多かったが、第三国の大学院・就職を希望する者も少なからずいた。「より広い世界を見たい」という肯定的な第三国希望であれば構わないが、「日本では自分のニーズは満たせない」「日本は居心地が悪い」という否定的印象をもとに第三国への移動を希望するのであれば、それは将来の日本にとって大きなマイナスにつながる。日本が国を挙げて「留学生増加」に取り組んでいるのは、知日派・親日派を諸外国に増やし、将来の日本との良好な関係構築の架橋になってもらいたいという目的のためでもある。それが、留学の結果、「日本はダメ、欧州に行こう」と考えさせるようでは本末顛倒である。そのようにならないよう、日頃の授業・研究面での質の向上、生活面での支援が必要である。

4-3. 日本語能力

日本語への自信、そして受講希望については3年連続して同様の結果となっており、信州大学には中級、中上級の日本語能力を持つ者が多いこと、しかし、自分にとって有意義な授業であれば積極的に受講したいことを裏付けている。前2回の調査をもとに、SUNSを利用した全学部対象の日本語補講(中級)を開始したのであるが、今回の「どのような日本語能力を身につけたいか」というニーズを見ると、①「論文執筆」に焦点を当てた授業

および②「日本事情」を日本語で話し合いながら学んでいく授業の必要性が高いことが分かった。今後の授業計画に生かしていきたい。

4-4. 日本人との接触

「第3回 学生生活実態調査報告書」(2001)は、信州大学の957名の日本人学生の生活実態を調査したものであるが、その中の「留学生との交流があるか」という問いに対し、69.7%の学生が「ない」と回答し、その理由として「交流する機会がない」を挙げた者が86.5%に達した。ここでは「交流したいか」については質問していないが、おそらく日本人学生の交流のニーズは相当に高いと予想される。留学生に関しては、2年連続して「日本人との接触を持ちたい」が90%超である。つまり双方にニーズがあるにも関わらず、交流がスムーズに進んでいない実態が分かる。その理由として、留学生交流事業の大部分が留学生にのみ目を向け、日本人学生に着目していないことが挙げられる。「留学生をたくさん呼びたいので日本人学生はちょっと…」「留学生の話は聞きたいが、別に日本人とは…」といった意見が根強く、日本人学生にも焦点を当てた交流活動は、学内・学外ともにわずかである。しかし、ほぼ同年代で授業でも顔を合わせる日本人学生との交流は、留学生も強く希望しているものであり、今後は日本人学生も対象に入れるよう、学外の交流団体に依頼する、学内の交流活動では必ず日本人学生にも声をかけるといった努力が必要だと考える。ただし、日本人学生の姿勢にも問題を感じる。確かに日本人学生も含めた交流活動は少ないが、留学生との交流は何も交流活動に参加しなくても可能である。授業の後や夕食時などを利用した交流は、同じ学生同士でもあり、容易に可能である。交流の場所を設定してもらうのではなく、自分から働きかける意志・勇気が必要であろう。

日本人の印象は、「表面的な付き合いが多い」という項目に集中した。これはステレオタイプ化されているため選択したという可能性も否定できないが、ステレオタイプになるほどの的を得ているということもできる。韓国のように、心をさらけ出して接することが良しとされる社会から来日した場合、ストレスは相当なものになると予想していいだろう。

4-5. 満足度

3年連続して「かなり満足」という結果が出たが、この結果に喜んでいてはいけなことが、今回の調査で加えた質問で明らかになった。「友人・家族」に信州大学への留学を勧めないとした者が21.5%もいたのである。本当に信州大学を高く評価しているのであれば、満足度同様、90%超の学習者が「勧める」と回答するのではないか。しかし、自分は80%程度満足してはいるが、友人・家族にはもっといい大学に行ってもらいたいと考えている者が相当数に上ることが分かる。この数字を引き上げて90%をコンスタントに超えるようになって初めて、信州大学が真に留学生にとって素晴らしい大学だと言える。

5. 各種ソート結果

この章では、学部・学年などの対象毎に全体結果をソートし、対象とその他を比較して現れる注目すべき点について述べていく。

5-1. 学部別ソート結果（経済学部 56名とその他 121名の比較）

経済学部は、以前から積極的に留学生受入に取り組んでおり、信州大学の8学部のうち、現在81名と留学生が二番目に多く所属している学部である。学部・大学院の比率では圧倒的に学部が高く、日本語学校を経て学部1年に入学してくる留学生が非常に多い。

経済学部とその他の留学生全体との比較をみると、大きな差異が見られるのは以下の点である。まず、アルバイト従事率が非常に高い。全体より30.5ptも大きい。奨学金受給率が全体より18.0pt低いことも影響しているのであろうが、アルバイトをする時間があること、することが自然だという雰囲気があることが予想される。次に、心配内容として「卒業後の不安」をあげた者が全体より17.0pt多い。それと対応する「卒業後の進路」をみると、日本および第三国の大学院進学をあげた者が、それぞれ全体より28pt以上多く、自国での就職をあげた者が28.6pt少ない。一方、日本での就職は全体と差異がない。つまり、大学院進学・日本での就職志向の者が多いことが言える。また「勉強の悩み」として、論文が書けない、講義が理解できないをあげた者が全体より20pt以上多く、コミュニケーションがとれないは逆に20pt少ない。話すことには問題がないが、論文執筆・講義の聴解に問題を抱えている状況が見える。上述した大学院進学志向とも密接に関わる点だけに、対策が必要だと考える。「日本人への印象」では、表面的な付き合いが全体より15.9pt多い。優れた日本語力やアルバイトなどで日本人との交流が多い経済学部の留学生が、表面的な付き合いという印象を強く持っていることは注目に値する。

5-2. 学部別ソート結果（医学部35名とその他142名の比較）

医学部は急速に留学生を受け入れつつあり、1999年には31名であった留学生数が現在は56名と25名も増員している。学部・大学院の比率では、学部が3名のみと圧倒的に大学院が優勢であり、この点では経済学部と対照的である。医学部には、それぞれの出身地で医者として経験を積みながら、更なる研鑽のために留学に来ている者が多いため、年齢が高く社会経験が豊富で、既婚者が多い点も他学部と異なっている。

医学部の結果とその他の結果を比較すると、まずアルバイト従事率が11.8pt低いこと、非常に困ったことがある者が11.1pt少ないことに注目される。奨学金の受給は全体より10.0pt低いにも関わらずアルバイトをしていないのは、時間的余裕のなさによるものと思われる。しかし「困っている」者が少ないのは、家族・学部などのサポート体制があるためであろうか。「心配内容」では、お金が全体より22.2pt多く、「卒業後」が12.8pt少なかった。上述したように、奨学金が少なくアルバイトができないためにお金問題が深刻である一方、すでに医者であるため将来の不安は少ない様子が窺える。家族に関する心配が多い点、自国および第三国での就職希望が全体よりはるかに高い点は、医学部らしい特徴と言える。「大学に対する要望」では、授業問題に対する要望が全体より26.2pt少なく、満足している様子が分かる。その一方で、お金問題の解決は25.9pt多くなっている。「日本語能力」は、自信がない者が全体より16.9pt高く、日本語に苦労している様子が窺える。その影響もあってか、「日本人との接触」では、挨拶のみが全体より30.1ptも多く、放課後・

休日の付き合いは23.1pt少ない。大学院の研究室と自宅の行き来のみという状況が予想される。一方「日本人に対する印象」をみると、異文化を理解している(+9.9pt)、私の国に興味(+17.5pt)と肯定的な評価が全体より多く、表面的な付き合いは13.2pt少ないように、肯定評価が高いと言える。「満足度」では、60%満足が全体より13.2pt多く、80%満足より多かった。大学に対しては、「まあ満足」という評価と言える。

5-3. 学年別ソート結果（1年生26名とその他151名の比較）

ここでは、学部1年生に着目してその他の学年との比較を行う。学部1年生はほぼ全員が国際交流会館に入居しており、相互の交流が深く結束が強い。また新たな試みに積極的に参加するため、学内・学外の交流活動の参加率が、他学年に比べ非常に高い。そのため、日本人との接触などに注意して比較を行うことにする。

「心配内容」で、全体では低い「卒業」をあげた者が多かった(+14.5pt)。卒業に漠たる不安を持っているためと思われる。また、講義を理解できないとした者が全体より36.2ptも多く、「大学への要望」でも授業問題解決をあげた者が36.9pt多かった点は注目される。入学後半年以上経過しての時点で、講義の理解に大きな不安を持っていることが窺える。「日本人との接触」では、挨拶のみが14.7pt多い。「印象」では、全体より低いものが、私の国に興味が-13.7pt、仲間として受け入れが-20.3ptで、全体より高いものが、一段低く見ている+10.6pt、国による差別+19.5pt、表面的な付き合いが+43.9ptである。このように、日本人に対し非常に否定的な印象を持っている様子が浮き彫りになった。学部1年生は、交流活動に積極的に参加し、交流しようと努力してきたが、日本人との継続的で深い交流につながらず、否定的な印象を持ちつつあるのではないかと推測される。

6. 今後の課題

今回は、前2回の反省をふまえ、その轍を踏まないように注意しつつ調査を進めるよう留意した。しかし、やはり様々な問題点が散見され、改めて反省が必要となった。最も大きな反省点、というよりも課題と言えることは、アンケートの回収率の低さである。今回は、留学生の自宅への直送+留学生センターへの返送(切手添付)という方法を採用したが、回収率の改善は見られず、50%をわずかに超える程度であった。次回、回収率を向上させるためには、今回同様の努力に加え、各学部において教官、事務官の理解を得、アンケート協力を留学生に働きかけてもらうなどの活動が必要になるのではないだろうか。

質問項目に関しては、調査に不要なものを削り、必要な項目に絞り込み、さらに詳しくその内容を知るための項目が追加されるなどにより、前回より質が高まったと考えている。そのため、留学生の状況が明示される結果が以前より増加したと言える。一方、「具体的にどのような勉強の悩みか」という項目では、適当な選択肢がないために「その他」に集中してしまう等の問題が見られた。次回は選択肢を更に修正していきたい。

その他、問題は多々あるが、このニーズ調査を3年連続して実施し、その比較を行ったことの意義は大きいと考える。この資料を、不十分なものではあるが信州大学の留学生の

基本資料として、今後の留学生施策を考えていく上で活用していきたい。また、時期をおいて次回のニーズ調査を行い、さらにこの資料の精度を高めていきたい。

参考文献

- 佐藤・秋庭 2001 「第2回信州大学の留学生のニーズ調査—2000年11月・12月調査において—」
『信州大学留学生センター紀要』第2号
- 信州大学学生生活調査委員会 2001 『第3回学生生活実態調査報告書』
- 佐藤・秋庭 2000 「信州大学の留学生のニーズ調査—1999年10月・11月調査において—」
『信州大学留学生センター紀要』第1号
- 永井・徳井・牧 2000 「留学生の日本人に対する意識変化とその影響要因としての地域の役割について」
『JAFSA調査・研究助成プログラム調査・研究報告書』
- 若林 秀明 1999 「オーストラリアの大学におけるニーズ分析」
『世界の日本語教育』 第9号
- 佐藤 友則 1998 「韓国および台湾の日本語学習者のニーズ調査」
『東北大学言語学科論集』 第2号
- 小川・小宮・高橋他 1998 「留学初期における学習者像把握のための調査報告」
『筑波大学留学生センター 日本語教育論集』第13号
- 佐々木瑞枝 1995 「日本語教育におけるニーズ・アナリシスとカリキュラム・デザイン」
『横浜国立大学留学生センター紀要』第2号
- 田中・斎藤 1993 『日本語教育の理論と実際 学習支援システムの開発』 大修館

2001年度 ニーズ調査表（縮小版）

☆この調査は、信州大学留学生センターの佐藤友則と経済学部留学生担当の秋庭裕子が実施しています。

- ① 質問に対する答えを、それぞれ選んでチェックしてください。また、新しい項目を作ったり、中間にチェックしたりしないでください。
- ② 最初から順に、記入漏れのないように答えてください。終了後は、再度見なおして提出してください。

1. 属性

- 1-1. 性別 ①男性 ②女性
- 1-2. 学部（ ） 学年（学部 年・M 年・D 年・研究生・聴講生）
- 1-3. 出身地域
①中国 ②マレーシア ③台湾 ④韓国 ⑤バングラデシュ ⑥その他の地域
- 1-4. 奨学金を受給していますか（どちらかに○）。 ①はい ②いいえ
- 1-5. アルバイトをしていますか（どちらかに○）。 ①はい ②いいえ

2. 相談

- 2-1. 信州大学に入学してから今までに、自分一人ではどうしようもないほど、困ったことがありますか。
①ある ②ない
- 2-2. 困った時にすぐ相談できる人が何人いますか（単一回答）。
①0人 ②1～2人 ③3～4人 ④5～6人 ⑤7人以上

2-3. 困った時に誰に相談しますか（複数回答可）

- ①留学生の友達 ②留学生の先輩 ③日本人学生（チューター含む） ④指導教官
⑤学部の留学生担当教官 ⑥留学生センター教官 ⑦保健婦 ⑧学外の日本人
⑨事務の人 ⑩誰にも相談しない ⑪その他（ ）

2-4. どんなことで、よく心配していますか。（複数回答可）

- ①お金 ②研究・勉強 ③卒業・修了 ④卒業後・修了後 ⑤住居
⑥友人関係 ⑦家族 ⑧恋愛 ⑨自分の健康 ⑩その他（ ）

2-5. 上の質問で、②研究・勉強面を回答した人に質問します。具体的にどのようなことで悩んでいますか（複数回答可）。

- ①論文が書けない ②講義を聞いても分からない ③資料収集の方法が分からない
④先生とうまくコミュニケーションがとれない ⑤その他（ ）

2-6. 上の質問で、④卒業後・修了後を回答した人に質問します。卒業後・修了後について、具体的にどのようなことを考えていますか（複数回答可）。

- ①日本での大学院進学 ②自国での大学院進学 ③第三国（USAや欧州ほか）での大学院進学
④日本での就職 ⑤自国での就職 ⑥第三国（USAや欧州ほか）での就職
⑦その他（ ）

2-7. 大学にどんな要望がありますか。（複数回答可）

- ①お金の問題の解決 ②宿舎の問題の解決 ③授業・研究の問題の解決
④日本語教育の問題の解決 ⑤トラブル処理に関する問題の解決
⑥その他（ ）

3. 日本語能力

3-1. 自分の日本語能力に自信がありますか（単一回答）。

- ①ある ②まあまあ ③ない

3-2. もっと日本語の授業を多く受けたいですか（単一回答）。

- ①必要ない ②今のままで十分だ ③受けたい

3-3. 具体的にはどのような日本語能力を身につけたいですか（複数回答可）。

- ①先生と専門について話し合う能力 ②講義を理解できる能力
③論文を書く能力 ④論文を読む能力
⑤日本人との友人関係を深めていける能力 ⑥日本事情・文化や日本人の考え方をよく知る
⑦その他（ ）

4. 日本人との接触

4-1. あなたは、日本人学生とどの程度接触していますか（単一回答）。

- ①あいさつのみ ②授業ではよく話すが、休みに会うほどではない
③放課後や休日に食事をする

4-2. 今後、学外も含め、日本人と接触する機会を持ちたいですか。

- ①持ちたい ②それほど持ちたくない

4-3. 日本人について、どう考えていますか。（複数回答可）

- ①（日本人は）異文化をよく理解している ②私の国に興味を持っている

- ③私を仲間として受け入れてくれる
- ④留学生を、一段低く見ている
- ⑤留学生の国による差別がある
- ⑥留学生との交流に消極的だ
- ⑦表面的な付き合いが多く、親友にはなれない

4-4. 日本人とどのように交流したいか具体的に書いてください。(料理パーティーやディスカッション等)

5. 満足度

5-1. あなたの、信州大学に対する満足度をパーセンテージで教えてください(単一回答)。

- ①満足度100%
- ②満足度80%
- ③満足度60%
- ④満足度40%
- ⑤満足度20%
- ⑥満足度0%

5-2. 上の質問で、満足度60%より上を回答した人に質問します。具体的にどのようなことに満足していますか。(留学生に対して親切だ、学習環境がいい等)

5-3. あなたの友人や家族に、信州大学への留学をすすめますか。

- ①はい
- ②いいえ

ご協力ありがとうございました。

